MÉRILLE

事実上絶滅状態にあるこの品種はフランス南西部で
フロントン（Fronton）のブレンドに用いられることがある.

ブドウの色：

主要な別名：Bordelais または Bordelais Noir（フランス南西部のフロントン），Bourdalès または Bouchalès（アリエージュ県（Ariège）のパミエ（Pamiers）），Grand Vesparo または Vesparo à Queue Verte（ジェール県（Gers）；COT などの他の品種にもまた使われる），Périgord（ドルドーニュ県（Dordogne））
よくMÉRILLEと間違えられやすい品種：BOUCHALÈS ※（アリエージュ県のパミエ），MILGRANET ※（Petite Mérille の名で）

起源と親子関係

MÉRILLE については1873～4年にロット＝エ＝ガロンヌ県（Lot-et-Garonne）やジェール県で初めて，次のように記載されている（Rézeau 1997）.「MÉRILLE は黒いブドウで，小さく丸い果粒が密着して長い広い房をなしている．美味なるブドウである」．その名の起源は不明である.

VALDIGUIÉ と親子関係にあると考えられている（Galet 1990）が確認はされていない．DNA 系統解析によって PRUNELARD との親子関係が確認された（Boursiquot *et al.* 2009）．この結果は MÉRILLE がブドウの形態分類群の Cot グループに属することと一致する（p XXXII 参照）.

ブドウ栽培の特徴

熟期は中程度で安定して豊産性である．長く剪定すれば高収量になる．ダニ，ブドウ蛾，ヨコバイに感受性がある．大きな果粒で特に大きな房をつける.

栽培地とワインの味

ワインは軽く，いくぶん平凡である．MÉRILLE は Fronton アペラシオンのブレンドワインに，補助品種として用いられることがある．Vin de Pays des Côtes du Tarn への使用が認められている．2008年にはフランスで55 ha（136 acres）の栽培が記録されているが，50年前に記録した栽培面積2,422 ha（5,985 acres）からは減少している.

MERLOT

広く栽培されている，比較的早熟な肉厚のボルドー（Bordeaux）品種

ブドウの色：

主要な別名：Bigney，Crabutet，Langon，Médoc Noir，Merlau，Merlot Noir，Picard，Sémillon Rouge，Vitraille（Merlot Noir を除くすべての別名は歴史的に昔から用いられている別名である.）
よくMERLOTと間違えられやすい品種：カルムネール（CARMENÈRE ※（チリ）），MENOIR ※（ハンガリー）

起源と親子関係

メルロー（MERLOT）に関する最初の記載は1783～4年にジロンド県（Gironde）のリブルヌ（Libourne）

西部のプリモルスカ（Primorska）にあるヴィパウスカ・ドリナ地方では PINJELA という名前で呼ばれることがある．推奨される生産者としては Guerila や Vipava1894 などの各社があげられる．

PINOT

ピノ（PINOT）の歴史，起源や語源についてまず述べる．続いて最も重要なクローン品種について，文献に現れる時系列の順に，ピノ・ノワール（PINOT NOIR），PINOT MEUNIER，ピノ・グリ（PINOT GRIS），ピノ・ブラン（PINOT BLANC），PINOT TEINTURIER，PINOT NOIR PRÉCOCE について個別に述べる．

クローンの多様性

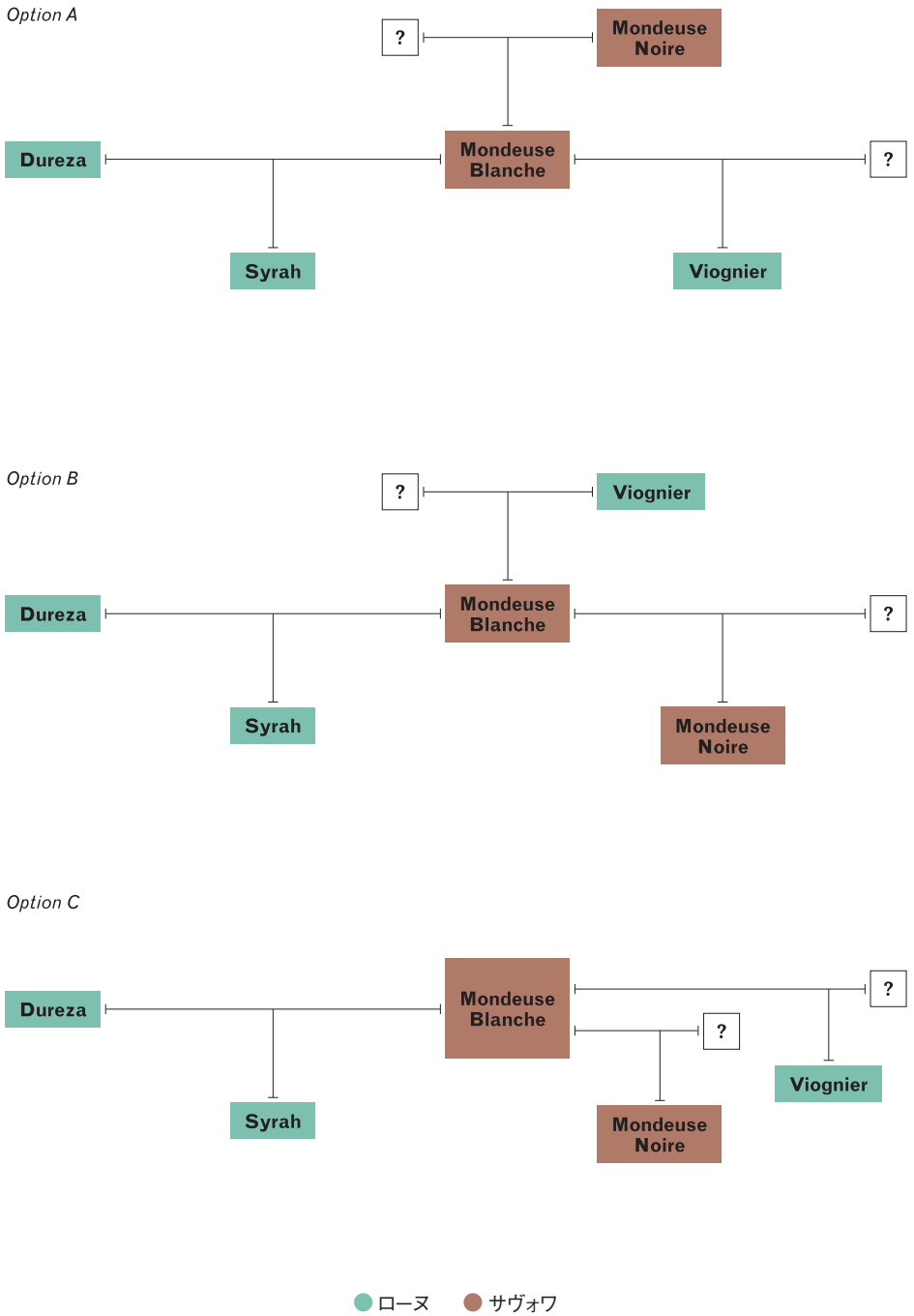
ピノは数世紀にわたって栄養生殖によって繁殖されてきた．したがって変異をおこすのに十分な時間があり，これが1,000を超えるおびただしい数のクローンの多様性が存在する理由である．果粒の色，収量，官能特性，葉の形，果房の大きさなど非常に高度の多様性があることから，ピノは特に高い突然変異率をもつといわれる（Bernard 1995）ことがあるが，ピノが他の品種よりも高い変異速度をもつという科学的証拠はない．本当の理由は単に2,000年にもおよび長い間存在し続けてきたためだと考えられる．

最近まで，ピノ・ノワール，ピノ・グリ，ピノ・ブラン，PINOT MEUNIER，PINOT NOIR PRÉCOCE および PINOT TEINTURIER はいわゆる「ピノファミリー」に属する異なる品種であると考えられてきた．しかし黒，灰，白色の果粒は同じピノのブドウの樹にあらわれることがあり，ストライプの果粒も出現した．標準の8種類の DNA マーカーを用いた DNA 解析によって，これらのすべてのピノのタイプは同じ遺伝的フィンガープリントを有することが明らかになった（Regner *et al.* 2000b）．したがって，これらすべては単一の品種ピノの中に現れる変異であり，ピノ・ファミリーという言葉を使うのは間違っている．それにもかかわらず，クローンの違いは遺伝的背景の違いを有し，100種類の DNA マーカーを用いた解析により，わずかな遺伝的な違いがシャルドネ（CHARDONNAY）同様にピノクローンの間にも見いだされた（Riaz *et al.* 2002）．

1960年代にフランスのブルゴーニュ（Burgundy）のブドウ畑のウィルス感染に対応するため，ピノ・ノワールのウィルスフリー・クローン（ウィルスに感染していないクローン）を選抜して認証しようという試みが行われた．いわゆる PINOTS DROITS と呼ばれた大きな果粒のブドウ含む初期の選抜で得られたいくつかのクローンは，質よりも量の観点から選抜されたことで悲惨な結果をもたらした．しかしその後，数百の優秀なクローンの選抜が行われ，番号を配当して世界中のピノ栽培地区に輸出された．現在，最も需要が高いのは113，114，115，667，777および828と呼ばれているクローンである．アメリカではそれらは「ディジョン（Dijon）クローン」として知られ，オーストラリアではこれらのクローンを広く配布した Raymond Bernard 氏の名にちなんで「Bernard クローン」と呼ばれることが多い．これらのクローンは，それぞれ特別な属性を求めて選抜されたものだが，一般に小さな果粒をつけるため，ヨーロッパ以外で最初に植え付けられたクローンから作られるワインよりも，複雑だがより控えめなワインを作ることができる．ヨーロッパ以外で最初に導入されたクローンには，たとえばカリフォルニア大学デービス校が配布した Pommard クローン（UCS4および5），スイスのヴェーデンスヴィル（Wädenswil）で認定されたウィルスフリー・クローンである Wädenswil クローン（UCD 1），さらには Mariafeld（UCD 23）などがある．最初にヨーロッパ外で繁殖した人名にちなんだもの（カリフォルニア州の Wente）や，植物検疫を避けて密輸した人名にちなんだクローン（ニュージーランドの Abel）などもある．今日，多くの栽培家の間で，特にブルゴーニュでは，単一のクローンよりも異なる樹（クローン）を含む集団（マス・セレクション）を栽培することが好まれている．

他の仮説

ピノの起源については，多くの言い伝えがある（下記参照）が，真の起源は依然不明である．フランスのブドウの分類学者の Louis Levadoux（1956）は，ピノの形態は野生のブドウ（*Vitis vinifera* subsp. *silvestris*）と非常に似ており，それが栽培化されたものかもしれないと述べている．*Vitis vinifera* subsp.

シラー系統図2

2008年にMONDEUSE BLANCHEとMONDEUSE NOIREとの間の親子関係が，さらに意外なことにMONDEUSE BLANCHEとヴィオニエとの間の親子関係がDNA系統解析により発見された．おそらくすでに絶滅したであろう未知の品種（?）をこれに加えることで，遺伝的に同等な可能性をもつ3種類の系統を描くことができる．